

# みんなで「わらべうたあそび」を

## 町立図書館

わらべうたは、子どもたちの遊びや生活の中から生まれ、口伝えで今日まで伝わってきた、人と人とのきずなを深めるものです。

今年度からは図書館長と幼児教育課司書が、庄内保育所など町内の保育所に出かけて「わらべうたあそび」を行っています。

手を合わせたり、つないだり、向かい合って同じ動作をしたりする「わらべうたあそび」は、子どもたちにとって自然に人とふれあうことのできる楽しいひとときです。

「あらってあらって」「さあ巻きくば」「はやしのなかから」など、庄内保育所でも毎回、年少と年中、年長の子どもた



▲「はやしの中からおぼけが…」

▶「手をつないでまわれまわれ」



ちみんなが、仲間とくつつきあつて生き生きと遊んでいきます。

機会があれば、保育所はもとより子どもたちが集まる場所に出かけて、わらべうたを伝えていこうと考えています。

# 自立・向上・友愛・奉仕の信条で！

## 子ども会リーダー研修会

8月7日(水)～9日(金)に県立大山青年の家で「子ども会リーダー研修会」が行われました。

町内3つの小学校の4～6年生ら13人が参加し、テントでの宿泊や、沢登りを経験しました。

野外炊飯はカレー作り、薪を割ることから始まり、

かまどに火をつけて飯ごうでご飯を炊き、できたカレーを盛り付けました。みんなで協力してできあがったカレーは、いつも食べるものとはひと味ちがうカレーだったので、はないでしょうか。

学校や地域のリーダーとして、この3日間の体験を大いに生かして活躍してください。



▶薪を割るにも「苦労」いい体験でした。

# 孝霊山の魅力を探る

## 大山公民館高麗分館

高麗地区の人々になじみ深い山といえば、孝霊山です。

地域の人々からは「かあら山」とか「から山」と呼ばれ親しまれています。昔、唐の国の山と大山の背比べがあり、負けた唐の山をそのまま置いて帰ってしまったので『からやま』と呼ばれるようになったという民話もあります。

高麗分館の文化的事業として、一昨年から「孝霊山へ登

ろう！」の機運が高まり、今年で2回目となる「孝霊山・山頂登山」を9月1日(日)に行いました。

高麗地区のみならず、他の集落からも参加があり、参加者は、子どもを含めて総勢28人。降り続く大雨にも負けず、過酷な登山道で山頂に挑戦しました。

山頂到着の達成感を感じるとともに大人と子どものふれあいも深めることができました。



▶ご夫妻で無事登頂